

第4章 今後の取組と進め方

1 今後の取組

(1) 大泉桜学園と研究グループにおける成果発表と検証

大泉桜学園は、練馬区教育課題研究校として平成 23・24 年度の 2 年間、小中一貫教育について研究に取り組んでいます。研究グループでは、平成 23・24 年度の 2 年間、教科等学習指導上の連携について研究を行っています。大泉桜学園と研究グループにおける取組の成果を全区的に発表するため、平成 24 年 11 月ごろ、「(仮称) 小中一貫教育ねりまフォーラム」を開催します。

大泉桜学園については、練馬区教育課題研究校として学園独自の研究発表も行います。小中一貫教育校としての取組の成果と課題を検証・報告し、区内の小中学校に対しても情報発信をしていきます。

(2) 研究グループの指定

研究グループの成果を検証したのち、平成 25 年度から研究グループを段階的に全中学校区で指定していきます。研究グループとしての指定を 2 年間とし、その研究期間後は実践校として、研究で取り組んだ教育活動を継続します。

平成 27 年度には、すべての中学校区に研究グループあるいは実践校がある状態（全中学校が教科連携を実施している状態）をめざします。

(3) 小中学校における取組の充実

平成 24 年度から、中学校区別協議会を生活指導中心と学習指導中心の年 2 回に増やしていきます。

また、平成 24 年度から、練馬区立の全小中学校において「小中一貫教育資料」を年間指導計画に位置付けて積極的に活用します。

従来からの各校における児童・生徒の交流、教員の交流については、今後も継続・発展させていきます。

(4) 2校目の小中一貫教育校の検討

大泉桜学園における取組の成果と課題を検証しながら、2校目の小中一貫教育校の設置について、検討していきます。

また、校舎の改築計画や学校の適正配置を検討する際には、小中一貫教育校の可能性についても、あわせて検討していきます。

② 今後の進め方

(1) 小中一貫教育の推進上の留意点

小中一貫教育は、それぞれの小中学校の児童・生徒の良さや課題、小中学校間の距離、通学区域の広さ・重なり方や地域性など、それぞれの小中学校の特色やこれまでの取組を踏まえて進めていく必要があります。

特に、小中学校間の距離については、小中学校の連携を強化するにあたって、大きな課題となります。児童・生徒や教員の交流において、小中学校の施設が一体化している場合には、日常的に、児童・生徒が学校生活を共にすることや、全教職員が協力して、1年生から9年生までの児童・生徒の9年間の成長を見守り、一貫して教育指導できることなど、小中一貫教育を進めやすい環境にあります。小中学校が隣接・近接している場合には、移動時間が必要となりますが、短時間であることから、比較的、進めやすい状況にあります。一方、小中学校間の距離が離れている場合には、児童・生徒の交流や教員の打合せなどの時間に加えて、往復の移動時間がかかることなどから、取組が制約されることが想定されます。このような小中学校間では、小学生が中学校校舎で授業などを受けて全日過ごしたり、校外学習や宿泊学習を通して児童・生徒が交流したり、長期休業期間中に小中学校の教員が合同で研修に取り組むなど、距離が離れた小中学校の状況に応じた工夫や条件整備が必要となります。研究グループでの研究を積み重ね、児童・生徒にとって効果の期待できる取組を選択して行うことが大切です。

小中学校間の学力観や指導観、児童生徒観の違いについて共通理解を図るため、小中一貫教育についての研修や従来からある職層ごとの研修会等を活用して、小中学校が協議する場を工夫して設定する必要があります。

(2) 推進方策について

大泉桜学園と研究グループでは、平成23・24年度の2年間、研究を行い、取組の成果を全区的に平成24年11月ごろ、発表する予定です。

推進方策については、今後の大泉桜学園および研究グループにおける取組の成果・検証などを踏まえて、児童・生徒にとって実効性のある取組となるよう、校長会などとも協議しながら、必要に応じて見直していくものとします。

推進スケジュール表

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中学校区内の小中学校(連携校)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や教員の交流 ・小中一貫教育資料の活用(試行) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育資料の活用(全校) ・研究グループの課題改善カリキュラムを活用 			
研究グループ(実践校)	<ul style="list-style-type: none"> ・23・24年度研究グループ(10グループ22校)研究開始 ①課題改善カリキュラムの作成・実施(2教科以上) ②連携を進めるための推進組織の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 「(仮称)小中一貫教育ねりまフォーラム」で10研究グループと大泉桜学園の取組を発表 	<ul style="list-style-type: none"> 実践校へ移行 ・25・26年度研究グループ開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・26・27年度研究グループ開始 	<ul style="list-style-type: none"> 実践校へ移行 ・27・28年度研究グループ開始(累計33グループ)
小中一貫教育校	<ul style="list-style-type: none"> ・大泉桜学園開校 	<ul style="list-style-type: none"> ・2校目の小中一貫教育校の検討 			